

（分担研究報告書）

医療情報ネット（ナビイ）の状況とがん医療情報検索における可能性について

研究代表者 若尾 文彦 国立がん研究センターがん対策情報センター本部・副本部長

研究要旨

2024年4月より、全国統一システムとして、新規運用開始した医療情報ネット（ナビイ）（以下ナビイ）によるがん医療機関の検索における可能性について、ユーザー視点で検証を実施し、がん領域での有用性・課題・情報連携の可能性等を検討した。ナビイは、全医療機関の幅広いリッチな情報を有しており、がん医療機関を探す際には、有用な情報源となる可能性を有しているが、「キーワードで探す」では、一般的な用語ではヒットせず、さらに、様々な条件で絞り込み機能を提供している「じっくり探す」では、がんカテゴリーが用意されておらず、非常に煩雑な操作が必要とされる状況である。

現行のデータを活用して、がん領域の医療機関を効率的に検索するためには、「利用者属性」に「がん」を追加するあるいは、「その他の項目」の「疾患・治療内容」にがんを追加などで、辿りつきやすくするとともに、がん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院等で絞り込みできるようにすることも有効と考える。

仮に、がんに特化した情報の追加や検索カテゴリーの追加が難しい場合であれば、他のがん医療機関データベースとの情報連携を実施することで、患者に役立つ検索と詳細な情報を届けることに繋がると考える。

A. 研究目的

全国の全医療機関の情報を提供するシステムとして、2024年4月より医療情報ネット（ナビイ）（以下ナビイ）が運用を開始した。本システムは、都道府県単位の医療情報システムを全国統一システムとして、再構築されたもので、患者が受診するための診療時間等の情報を含め、医療機関による発生源入力により、幅広いリッチな情報が提供されている。

この新規運用開始したナビイによるがん医療機関の検索における可能性について、ユーザー視点で検証を実施し、がん領域での有用性・課題・情報連携の可能性等を明らかにすることを目的とする。

B. 研究方法

ナビイの検索機能・インターフェイス、提供情報項目等を確認し、ナビイを用いたがん診療医療機関の検索をおこない、検索方法、検索結果等から利便性の評価、操作性の評価、利用における課題、課題に対する対応策の検討等を実施した。

（倫理面への配慮）

公開データに基づく研究であり、特段の倫理面での配慮を必要としない。

C. 研究結果

トップページで、「医療機関を探す」、「薬局を探す」がタブで選択できるが、今回は「医療機関を探す」に特化して、検証を行った。トップページの

検索インターフェイスは、①キーワードで探す②急いで探す③じっくり探す④都道府県固有の機能から探す4種が提供されており、それぞれについて、がん診療を行う医療機関の検索を実施した。

①キーワードで探す

（ア）病院種別のキーワードで検索

病院種別に関連するキーワードで検索した結果、以下のような状況であった。都道府県がん診療連携拠点病院0件、地域がん診療連携拠点病院2件、地域がん診療病院1件、がん診療連携拠点病院511件（実数は461件）、小児がん拠点病院17件（非拠点2件を含む）

（イ）がん種、治療法で検索

がん種、治療法に関連するキーワードで検索した結果、以下のような状況であった。肺がん35,979件、肺悪性腫瘍1,913件、肺がん手術0件、肺悪性腫瘍手術0件、肺悪性腫瘍摘出術994件

（ウ）体制で検索

病院の体制に関連するキーワードで検索した結果、以下のような状況であった。がん相談支援センター0件、緩和ケアセンター0件、外来化学療法センター0件、通院治療センター1件

②急いで探す

急いで探すは、受付時間や場所などの情報から検索するインターフェイスで以下の画面を有している。

（ア）現在診療中の医療機関

場所を選択＞受付時間を選択＞医療機関を選択＞診療科目を選択

(イ) 休日夜間対応医療機関

場所を選択

### ③じっくり探す

じっくり探すでは、以下に示す<基本項目>、<利用者属性>、<その他>で絞り込む機能が提供されている。

(ア)<基本項目>

診療科目、場所、外国語

(イ)<利用者属性>

高齢者、小児、障害児・者、医療的ケア児、女性、と難病が選択できる。高齢者～女性では、施設・設備、診療科、医療従事者、提供できる医療の内容について、関連する情報が提示され、絞り込める機能が提供されている。難病については、難病のリストから該当難病を選択できるようになっている。

(ウ)<その他>

その他では、以下の項目に関連する情報で、絞り込む機能が提供されている。診療科目・時間、医療機能、施設設備、疾患・治療内容（小児の疾患等への対応、女性特有の疾患等への対応、難病への対応、心臓・血管の病気への対応、精神疾患への対応）、その他検索項目、駐車場、その他

### ④都道府県固有の機能から探す

項目名では「都道府県固有の機能」とあるが、各都道府県のページを確認したところ、固有の機能に該当するものは確認できなかった。都道府県別の検索が提供されている状況であった。

### ⑤病院リーフの情報

各病院のリーフページは、概要、基本情報、病院へのアクセス、病院内サービス等、費用負担等、診療内容、提供保健・医療・介護サービス、結果に関する事項の7つのタブで構成され、それぞれに以下の情報が含まれている。

(ア)概要

(イ)の項目から抜粋された主要項目

(イ)基本情報

施設詳細、開設者詳細、管理者詳細、所在地詳細、電話番号・FAX番号、診療時間・外来受付時間、休日・休業日、病床種別・届出・許可病床数、病院の運営方針、診療科目・診療日、診療時間、外来受付時間、予約診療の有無

(ウ)病院へのアクセス

病院・診療所までの主な利用交通手段、病院・診療所の駐車場、案内用ホームページアドレス、予約診療の有無、時間外における対応、面会の日及び時間帯、救急医療機関

(エ)病院内サービス等

院内処方の有無、多言語音声翻訳機器を利用した対応、外国人の患者の受入れに関するサポート体制の整備、障害者に対するサービス内容、車椅子等利用者に対するサービス内容、受動喫煙を防止するための措置、医療相談体制の状況、入院食の提供方法、病院内の売店又は食堂の有無、対応可能な外国語の種類

(オ)費用負担等

保険医療機関、公費負担医療機関及びその他の病院の種類、「特別の療養環境の提供」に係る病室差額料が発生する病床数及び金額 差額ベッドを有している場合は、ベッド数及び料金、その他の選定療養費、治療の実施の有無及び契約件数、電子決済サービスの有無、対応可能な決済サービス、決済サービス名称、先進医療の実施の有無及び内容

(カ)診療内容、提供保健・医療・介護サービス

医師、歯科医師、薬剤師、看護師その他の医療従事者の専門性に関する事項（専門性資格及び人数以外）、その他認定医、4泊5日までの手術、日帰り手術、1泊2日入院手術、専門外来の有無及び内容、オンライン診療実施の有無及びその内容、マイナンバーカードの保険証利用により取得した診療情報を活用した診療の実施の有無、電子処方箋の発行の可否、対応することができる予防接種、その他、セカンド・オピニオンに関する状況、医療連携体制に関する窓口の設置の有無、地域連携クリティカルパスの有無、かかりつけ医機能、地域医療連携体制実施有無（病院・診療所）、地域の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との連携に対する窓口設置の有無、リハビリテーション関連、医療連携のための患者手帳の活用、周産期医療連携システム、医療従事者の専門性に関する事項、保有する施設設備、併設している介護関連施設等、対応可能な疾患・治療の内容、在宅医療、在宅療養指導、診療内容（在宅）、他施設との連携

(キ)医療の実績、結果に関する事項

看護師配置状況、医療安全についての相談窓口の設置の有無、医療安全管理者の配置の有無及び専任又は兼任の別、医療安全管理部門の設置、医療事故情報収集等事業への参加の有無、医療の安全管理のための指針・医療安全管理対策マニュアルの作成、医療事故調査制度に関する研修の管理者の受講、他の病院又は診療所についての医療安全対策に関する評価の実施及び当該医療機関についての医療安全対策に関する他の病院又は診療所からの評価の受審、院内感染対策担当者の配置、院内感染対策部門の設置、厚生労働省院内感染対策サーベイランス

(JANIS)への参加、院内感染対策マニュアル・指針の作成、入院診療計画策定時の院内連携体制、診療情報管理体制、情報開示に関する体制、症例検討体制、治療結果情報、患者数、平均在院日数、患者満足度の調査、産科医療補償約款補償、医療の評価機関による認定の有無、難病への対応、主に連携している他の医療機関、脊髄損傷合併症、脳性麻痺二次障害、がん治療基本情報（がんの放射線治療を専門的に行う常勤医師数、がんの化学療法を専門的に行う常勤医師数）、災害医療、医療機関の人員配置、対応可能な難病、

## D. 考察

従来、都道府県毎にインターフェイスが異なっていた医療機関情報検索システムが、全国統一システムであるナビイとして、2024年4月にサービスインされた。ナビイは、全国の全て医療機関がカバーされ、非常にリッチな情報を有しており、医療機関によるデータ更新によって、情報の迅速な更新も期待できる。この膨大なデータをがん診療施設の検索に活用できれば、患者にとって様々な情報が提供されることに加え、医療機関にとっては、がん医療機関情報データベースの情報を別途、入力するという労力の節減という大きなメリットも期待できるところである。

しかし、実際にがんの医療機関を検索する目的でまず、「キーワードで探す」で検索したところ、がん診療連携拠点や肺悪性腫瘍摘出術などの難解な

用語をフリーテキストで入力する必要があることと、非拠点がヒットするなどデータ自体の問題も示唆され、実用性は極めて小さいと考えられた。また、診療内容で探す場合は、「じっくり探す」>その他の項目で探す>その他>その他の疾患への対応>領域選択を実施する必要があり、非常に煩雑でこれも、実用的ではないと考えられた。現行のデータを活用して、がん領域の医療機関を効率的に検索するためには、「利用者属性」に「がん」を追加するあるいは、「その他の項目」の「疾患・治療内容」にがんを追加などで、辿りつきやすくするとともに、がん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院等で絞り込みできるようにすることも有効と考える。

全国版となって、インターフェイスが統一され、希少疾患や県境付近において、県を跨いで検索が可能となったことは、大きな進歩であるが、都道府県システムの際に、一部の件で実装されていた「がん検索システム」が、なくなったことで利便性が大きく低下していると考えられる。わが国において死因のトップを占め、今後、高齢者の増加によって、罹患数・死亡数とも増加することが確実ながんに対して、より簡便なインターフェイスが必要であると考えられる。

仮に、検索系の改修が難しいということであれ、がん医療機関検索サービスであるがん情報サービス病院を探すの病院基本情報から、ナビイの基本情報、病院へのアクセス、病院内サービス施設情報などにリンクを張って詳細な情報を活用することで次善の策となると考え、今後、データベース間の連携が不可欠と考える。

## E. 結論

2024年4月より、全国統一システムとして、新規運用開始した医療情報ネット（ナビイ）によるがん医療機関の検索における可能性について、ユーザー視点で検証を実施し、がん領域での有用性・課題・情報連携の可能性等の検討を実施した。ナビイは、全医療機関の幅広いリッチな情報を有しており、がん医療機関を探す際には、有用な情報源となる可能性を有しているが、がんの医療機関の検索には、非常に煩雑な操作が必要とされる状況である。新たにがんカテゴリーを追加するなどの対応が求められる。仮に、がんに特化した情報の追加や検索カテゴリーの追加が難しい場合であれば、他のがん医療機関データベースとの情報連携を実施することで、患者に役立つ検索と詳細な情報を届けることに繋がると考える。

## F. 健康危険情報

特になし

## G. 研究発表

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし